

学生の皆さんへ テーマ〈高校の受験勉強と受験勉強が10年後にもたらす効果〉

塾長 ご無沙汰してます、達哉です。頂いたテーマに関して…。
早いもので、受験勉強をしていた時から干支が一回りしてしまいました。記憶が薄らぎかけていますが、ご容赦ください。

【短期的な効果】

高校物理の受験勉強には、大きく三つのフェーズがあったな、と思います。

- ① 基礎知識を叩き込む(教科書と、その章末問題)
- ② どの基礎知識が求められるか、バツと分かる問題を解く(重要問題集)
- ③ どの基礎知識が求められるか、バツとは分からない問題を解く(東大の赤本?)

私は、教科書の章末問題①がちょっと怪しい状態から、重要問題集の他にも複数の問題集②に手を出してしまいました。これが失敗だったな〜、と思います。

受験は一年勝負なので、難関大の試験問題③が解ける状態に最短でたどり着く必要があります。

③の解き方を推測するのに必要な知識②は、際限がありません。色々な大学や塾や出版社が、②の問題を作ってきたからです。

一方、②の解き方を推測するために必要な知識①は、そこまで膨大ではありません。①は「教科書に書いてあること」が全てだからです。

となると、②の段階で「あれ①なんだっけな」と考え始めると、②の問題分(つまり無限)に時間をロスします。なので、徹底的に①の段階で「疑問を潰す」のが、遠回りに見えて近道です。

一番の理想は、①を徹底的につぶした後、すぐに③を数年分だけ解き、傾向を掴む。掴んだ傾向から、②で重点を置く分野を逆算で決める、かと思います。残念ながら、当時の私にそんな作戦を立てる能力はありませんでしたが…。

今はYouTubeでも色々な受験テクニックが公開されているようなので、参考にされるといいと思います。



【長期的な効果】

私ももうすぐ30歳なので、「受験勉強が10年後にもたらす効果」的な話の方がしやすい歳になってしまいました。

①を徹底的にやった方がいいのは、(自分の専門分野以外は)受験が終わると①以外は忘れてしまうからです。学問という点では、②③はテクニックで、①が本質(エッセンス)だと思います。

正直、重要問題集やチャート式に載っていた問題は、一つたりとも覚えていません。ですが、①レベルの知識なら今でも引用することが結構あります。今の仕事で言うと、三角関数を使って橋の3Dモデルの寸法を求めたり、積分を使って道路のグネグネを計算したり、 $F=kx$ の応用で橋の強度を計算したりしています。(どれもすごく大雑把な説明ですが)

その時に、自分から「この計算に三角関数が使えそう!」と思うか、先輩に言われて「ああ三角関数とかあったな」と思うか、先輩に言われても「三角関数…?」と思うかで、仕事の進めやすさに天と地ほどの差が出ます。

三角関数に関する詳細(例えば「合成」がどう、とか)は、ググるなり教科書を引っ張ってくるなりして、その時に確認すればよいです。仕事の際は、カンニングし放題なのでから…。

あくまで「あ! 三角関数!」と思えることが大事です。で、それに相当するのが①です。

卒業生 日下部 達哉

東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻卒



<https://gakushisha.com/>
詳細はHPを御覧ください

学志舎 検索

本気になれた経験はこれからの一生を支えてくれる。夏期講習会2022

自律学習の徹底

「言われたことはきちんとこなすが、自分で考えて行動を起こすことが出来ない子が多い」と言われる昨今、学志舎は「学力」=「学ぶ力」すなわち「自分で考えて、学習できる力」と位置づけ、徹底した自律学習指導を行うことにより、自分で考えて行動できる子どもを数多く育てています。



小学部

中学・高校の6年間で花開く「基礎学力」を徹底して作るコース

勉強の習慣付けを徹底



中学部

高校受験のための教科力と自律の養成を徹底して行うコース

朝6時オールナイト学習会終了



高校部

本格的な大学受験のための学力形成を徹底して行うコース

合格おめでとう!

褒める教育の徹底

褒め上手な親の子は伸びる子が多い、もしくは学力が高い生徒が多いというのは、25年の経験の中で間違いありません。学志舎は19年前に岐阜県では初めてコーチングを導入し、お子さまの存在を認め、良いところを褒めることを徹底して行うことで、お子さまを大きく伸ばしています。

詳細はHPを御覧ください

〒500-8085 岐阜市白木町92番地
【お問い合わせ】平日10:00~21:00
☎058-265-4562
【感染症対策実施中】



<https://gakushisha.com/>

学志舎 検索

学志舎

岐阜市で25年の塾運営経験を活かし、 お子さまのレベルに合わせたカリキュラムを組み立て、 徹底した自律学習指導を行っています。

皆さんこんにちは、学志舎の山田です。表面の山本君が日下部君に質問した時のことは私も隣に座っていましたのではっきりと覚えています。私は常々「基礎の大切さ」を生徒に口をすっぱくして言っておりますが、たまたま先日この話のある生徒にしたところ「岐阜高校のトップクラスの人が基礎ができてないはずがないのでは?」という質問を受けました。

すぐに日下部君に生徒にわかりやすく説明したいのでメールで送ってくれんか?とLINEをしました。そして、左の返事をもらったわけです。社会人になって以降のことまで言及してくれるなんて、いかにも彼らしい回答です。

私が基礎は大切という話をするときに、彼の話ともう一つの例を挙げます。それはドリコム株式会社の内藤社長の話です。ドリコムという会社は「みんなのゴルフ」「ダービースタリオン」と言えばわかるでしょうか。社長が京都大学の学生時代に興した会社です。現役で受験に失敗した社長は勉強を再開するにあたって、苦手だった英語ではなんと中3のテキストを引っ張り出して学習を始めたそうです。1年後京大に合格する人間が、中3のテキストですよ。

確固たる基礎があつての難問トライなのですね。野球だってそうです。ファインプレーが生まれるまでに、どれだけのノックを受けてきたか。最初は体の前でしっかり打球を取る。バウンドによってグラブの差し出す位置を体にしみこませる。そんな基本のノックを受けた延長線上にダイビングキャッチのようなファインプレーが生まれるのです。けっして最初から3mも4mも離れた打球のノックを受けるわけではありません。

さて、基礎の話ともう一つ。それは「計画」です。学志舎では長期休みの講習会で、小5~中3生に日々の計画作成を義務付けています。「計画無きところに成功無し」これまた私が生徒に口うるさく言っている言葉です。14年前の冬期講習会前のことです。高1の日下部君が私に「塾長、冬の計画表をください」「どうした?」「夏休みに計画を立てずに過ごしたら、だらだらになってしまいました。冬は中学時代のようにやってみたいんです」私のPCの中にはいまだに14年前の「日下部計画」というエクセルファイルが残っています。

—— 卒業生の思い出 ——

塾長 山田 勝登

